

J R宇都宮駅ご利用の皆様、近隣住民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

宇都宮市議会議員の菅野大造でございます。

しばらくのお時間、お騒がせ致しますが、何卒ご協力頂きますようよろしくお願い申し上げます。

私からは、昨年12月定例議会一般質問におきまして、昨年11月に佐藤市長に提出致しました令和4年度の予算編成に対する要望書の中で、重点要望を中心に、何点か質問させて頂きましたので、ご報告をさせていただきます。

初めに、A I自動応答サービス「教えてミヤリー」の拡大についてです。

現在、スマートフォンの世帯保有割合は約87%と電話やパソコンなどを上回っており、最も普及している情報通信機器であり、その大きな特徴は、必要な時に、必要な情報を手軽に検索・閲覧できる使い勝手の良さであると言えます。

宇都宮市においては、2019年度から、先進的にスマートフォンの「LINE」を活用したA I自動応答サービス「教えてミヤリー」を導入し、現在、「子ども子育て分野」、「ごみ分別分野」にてサービスを提供しているところであり、市民からの評判も良いことから、現在導入されている分野にとどまらず、更なる拡大を進めていくことが有効であると考え、今後、どのように展開していこうとしているのか、の質問に対し、関心が高い分野として、住宅や防災に関する相談や支援制度など、市民に身近な「住まい」に関する分野を、今年度中に追加する予定との答弁を頂きました。

次に、特別支援教育へのICTの活用についてです。

本年4月より全児童生徒に1人1台端末が導入され、本市でも様々な授業の中で活用が進んでおります。

そのような中、岐阜県多治見市では、日本障害者リハビリテーション協会で提供している、教科書を読み上げたり、読まれている箇所を色付けしたりして、読むことの苦手な児童生徒の学習を助ける「デイジー教科書」というソフトを導入し、効果をあげているという記事が、公明新聞に掲載されており、発達障害などにより、普通の教科書では文章や図形を読解するのが困難な子どもにとって、大変有効な手立てであり、本市においても、このようなソフトを利用してはどうかの提案に対し、本市の一部の小中学校において先行して導入しているが、文章の読解を苦手とする児童生徒にとって、有効であることから、すべての小中学校において、必要とされる児童生徒の端末に導入できるよう、進めていくとの答弁を頂きました。

今後も、市民お一人お一人のご意見・ご要望をしっかりとつなげていくパイプ役として、取り組んで参ります。

ご清聴頂きまして、まことにありがとうございました。